

病害虫発生予察情報予報第 6 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
水稲 (早植え)	トビイロウンカ	並	やや少	152~154	 斑点米カメムシ
	紋枯病	並	並	143~144	
	斑点米カメムシ類	並	やや多	161~162 180~183	
水稲 (普通期)	トビイロウンカ	並	やや少	152~154	 トビイロウンカ
	穂いもち	並	並	137~142	
	紋枯病	やや多	やや多	143~144	
	斑点米カメムシ類	並	やや多	161~162 180~183	
	コブノメイガ	やや少	並	159~160	
	白葉枯病	並	並	148~149	
<p>1. トビイロウンカ 第二世代幼虫 (8月下旬頃) 対象の防除が行われていない圃場では、速やかに薬剤防除を行う。 第三世代幼虫の発生が予想される9月中旬~下旬に、各圃場での発生状況を確認し、幼虫を多数認めた場合には、防除適期である幼虫ふ化揃い期に薬剤防除を実施する。</p> <p>2. いもち病 一部で多発生圃場がみられる。葉いもちの発生がみられる中晩生品種 (さがびよりやもち品種) 圃場では、穂ばらみ期~出穂期の薬剤防除を実施する。穂いもちの発生が多いと予想される場合には穂揃い期にも薬剤防除を行う。</p> <p>3. もみ枯細菌病 気象予報に留意し、開花期間中に降雨が予想される場合には、出穂前後3日の間にスターナ剤による防除を行う。</p>					
大豆	ハスモンヨトウ	やや多	多	196~197 202~204	 ハスモンヨトウ
	カメムシ類	やや多	やや多	197~198 204~205	
	紫斑病	並	並	191~192	
<p>1. ハスモンヨトウ 本年は圃場間で発生程度に差がみられる。各圃場での発生状況を確認し、白変葉が散見され始めたら確実に防除を行う。また、その後、新たな白変葉の発生を確認したら、追加防除を実施する。</p>					
普通作物 全般	<p>1. 薬剤散布の際の留意点 薬剤散布は、周辺の環境に十分配慮し行う。特に、ミツバチの被害を回避するため、養蜂農家に農薬の散布時期等を予め伝達するなどの対応を取る。</p>				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害(抜粋)
		平年比	前年比		
イチゴ(育苗圃)	ハダニ類	やや多	やや多	208~209	 イチゴ ハダニ類
	うどんこ病	やや少	並	198~200	
	苗立枯症(炭疽・疫病)	並	並	202~207	
	アブラムシ類	並	並	213~214	
1. ハダニ類 本圃へハダニ類を持ち込まないよう、定植前に防除を徹底する。					
アスパラガス	ハダニ類	多	多	318~319	 ハダニ類
	アザミウマ類	やや多	並	317~318	
	褐斑病	多	やや多	314~315	
	茎枯病	やや少	やや少	313	
	斑点病	やや少	並	314	
1. ハダニ類 複数の圃場で発生が認められ、発生が平年に比べ多くなっている。虫見板への払落しを行い、寄生が認められれば直ちに薬剤防除を行う。また、薬剤が十分かかるように茎葉を整理して通風をよくするとともに、噴口を茎葉内に差し込む等して茎葉全体にかかるようにする。					
野菜・花き共通	チョウ目害虫(ハスモンヨトウ、オオタバコガ)	やや多	やや多	162, 164 イチゴ: 211~213 ナス: 246~247 アスパラガス: 316~317, 320 トマト: 394~395	 ハスモンヨトウ

作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害(抜粋)
		平年比	前年比		
果樹全般	果樹カメムシ類	多	並	240~243	 チャバネアオカメムシ
		注意報第2号			
1. 果樹カメムシ類 平成30年(2018年)8月24日付け病虫害発生予察注意報第2号参照。					
カンキツ	かいよう病	並	並	214~216	 黒点病
	黒点病	並	やや多	212~214	
	ミカンハダニ	並	やや多	234~238	
	チャノキイロアザミウマ	やや多	多	230~234	

<p>1. 果実腐敗対策 日焼け果や裂果は果実腐敗の原因となるので収穫時に取り除き処分する。また、果実に傷をつけないよう丁寧に扱う。腐敗防止対策のための薬剤散布は収穫7～10日前に霧状になるノズルを使ってムラがないように散布する。</p> <p>2. 黒点病 秋雨は発病を助長するので防除を徹底する。また、枯れ枝、剪定枝、切り株は伝染源となるので適切に除去し処分する。なお、切り株の除去が困難な場合は、切り株をビニールなどで被覆する。</p> <p>3. アザミウマ類 チャノキイロアザミウマによる果実への被害を防ぐために、8月中旬～9月上旬頃の防除を徹底する。また、高温乾燥が続くとハナアザミウマ類が多発することがあるため、果実の着色始期以降、園内をよく観察し、果実での寄生または被害を確認したら、早急に薬剤を散布する。</p> <p>4. ミカンサビダニ 園内及び周辺の園で新たな被害を認めた場合は、早急に薬剤を散布する。特に、前年に被害が多発した園や放任園等に隣接する園では防除を徹底する。</p>					
作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害(抜粋)
		平年比	前年比		
ナシ	黒星病	やや少	並	278～281	 ナシ ハダニ類
	ナシヒメシクイ	やや多	やや多	292～295	
	ハダニ類	多	多	297～300	
	<p>1. ハダニ類 本年は、多くの圃場で発生がみられる。早期落葉を防ぐため、低密度時（寄生葉率 10%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。</p>				
ブドウ	べと病	並	やや少	328～330	
	褐斑病	やや少	やや多	330～331	
	<p>1. べと病 本病による早期落葉の防止及び園内の菌密度低下のために、収穫終了後の防除を徹底する。</p>				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	9月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害(抜粋)
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多	407～408	 カンザワハダニ
	クワシロカイガラムシ	やや少	並	414～415	
	チャノキイロアザミウマ	並	並	413～414	
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多	412～413	
	チャノココクモンハマキ	並	並	411～412	
	チャノホソガ	並	並	410	
	炭疽病	やや少	並	402～403	
	輪斑病	やや少	並	403	
<p>1. カンザワハダニ 一部圃場で発生が多い。秋芽生育期にハダニが多発すると母枝の充実が不足するため、圃場ごとに発生を確認し、発生を認めた場合は直ちに薬剤防除を実施する。</p> <p>2. チャトゲコナジラミ 防除適期は9月中下旬頃である。発生園では、園内の発生状況をよく観察して、成虫が見られなくなった頃（若齢幼虫期）に防除を実施する。また、発生地域が拡大傾向にあるので、未発生園での本虫の発生に注意する。</p>					

- 注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。
- 注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。
- 注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

9月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する9月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成30年8月24日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における9月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (24.2℃)	40	やや高い
降水量	40	30 (180mm)	30	並

Ⅲ. 9月の予報

水稻（山間早植え）

定期調査：16圃場

調査日：8月23日



定期調査圃場の様子（早植え水稻）

1. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

発生株率 0%（平年3.2%、前年2.8%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：やや少（-～±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 各圃場における発生状況を確認し、幼虫ふ化揃い期（防除適期）に薬剤防除を実施する。

(2) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるよう丁寧に散布する。

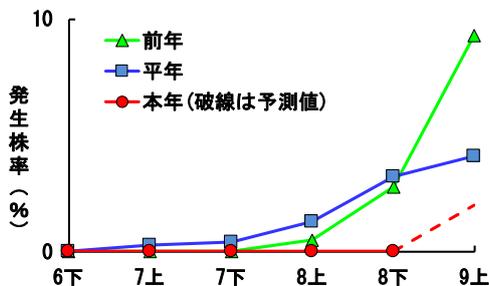


図1 山間早植え水稻でのトビイロウンカの発生推移

2. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査(図1参照)

発生株率 0.3%（平年 1.4%、前年 0.8%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

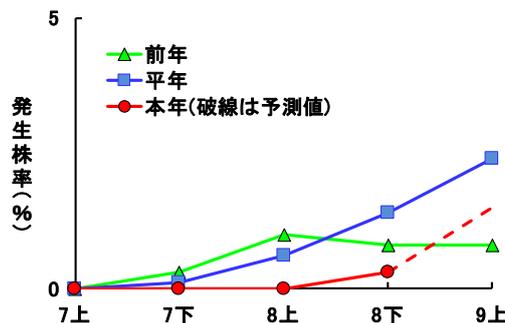


図1 山間早植え水稻での紋枯病の発生推移

3. 斑点米カメムシ類(クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、シラホシカメムシ類、アカスジカスミ

カメ、ミナミアオカメムシ等)

水稻（普通期）の斑点米カメムシ類の項参照。

水稻（普通期）

定期調査：48圃場

調査日：8月23日～24日



定期調査圃場の様子（普通期水稻）

1. トビイロウンカ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) トビイロウンカの発生状況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 0% (平年4.2%、前年10.4%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 少 (一)

② 嬉野市の5月下旬植えの「夢しずく」で本種の発生を認め ている (±~+)。

(2) セジロウンカの発生状況

【本虫の発生が少ない場合、トビイロウンカが多発生しやすい傾向がある】

① 定期調査

発生株率 7.7% (平年16.9%、前年9.8%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

(3) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は株元に生息しているため、薬剤は株元にむらなくかかるように丁寧に散布する。

(2) その他については特記事項を参照。

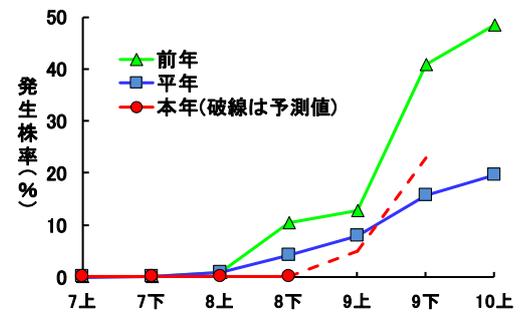


図1 普通期水稻でのトビイロウンカの発生推移

2. 穂いもち

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照) 【葉いもち】

発生株率 7.1% (平年13.7%、前年 9.1%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 並 (±)

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

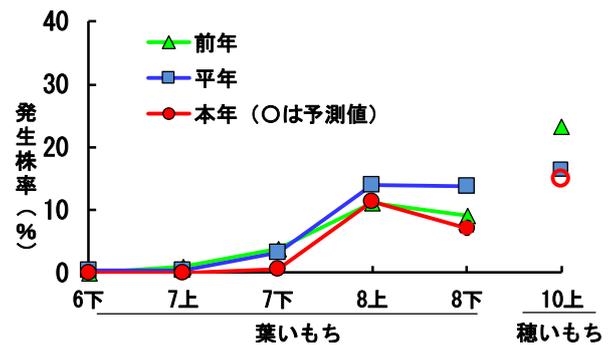


図1 普通期水稻でのいもち病の発生推移

3. 紋枯病

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1参照)

発生株率 1.0% (平年3.0%、前年7.1%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 少 (一)

② イネの生育状況 (中晩生品種 (さがびより、もち品種))

茎数 平年比: 多 (十)

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

各圃場で発生状況を確認し、病斑が上位3葉の葉鞘に達している場合は直ちに薬剤防除を行う。

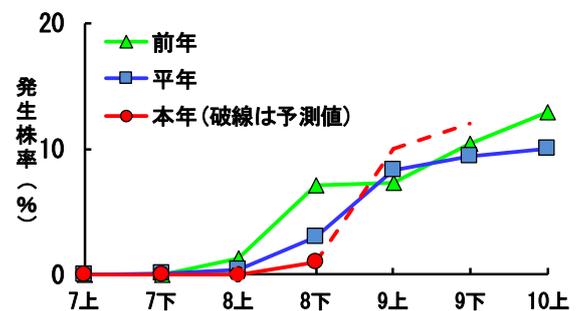


図1 普通期水稻での紋枯病の発生推移

4. 斑点米カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) イネ科植物での捕虫網によるすくい取り調査（8月23～24日）（表1）

20回すくい取り虫数 12.6頭（平年26.2頭、前年13.7頭）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) カメムシ類の生息数は地域ごとに異なるので、すくい取り調査や見取り調査を行い、発生状況を確認する。穂揃い期の20回すくい取りでクモヘリカメムシが5頭以上認められた場合は直ちに薬剤防除を実施する。
- (2) 多発生時は穂揃い期とその7～10日後に薬剤防除を行う。それ以外は、乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に薬剤防除を行う。

表1 斑点米の原因となるカメムシ類のイネ科植物におけるすくい取り調査結果

20回すくい取り虫数(2018年8月23～24日)

調査地点	場所	草種	クモヘリカメムシ		ホソハラカメムシ		シラホシカメムシ類		アカスジカスミカメ		ミナミアオカメムシ	計
			成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	
佐賀市①	畦畔	エノコケサ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
佐賀市②	畦畔	エノコケサ類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
武雄市	雑草地	エノコケサ類 メシハ	5	2	0	0	1	2	10	0	0	20.0
伊万里市	雑草地	メシハ	0	0	5	3	3	1	18	0	0	30.0
多久市	雑草地	メシハ	0	0	6	1	1	0	8	0	0	16.0
嬉野市	雑草地	エノコケサ類 オシハ	2	3	3	0	0	1	5	0	0	14.0
白石町	雑草地	エノコケサ類	4	0	1	0	0	2	1	0	0	8.0
本年（平均）			1.6	0.7	2.1	0.6	0.7	0.9	6.0	0.0	0.0	12.6
前年（平均）			3.2	2.3	1.8	1.0	0.9	2.1	1.7	0.7	0.0	13.7
平年（過去10年の平均）			2.2	4.6	2.1	0.8	0.7	0.9	11.1	3.8	0.0	26.2

5. コブノメイガ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率 0.4%（平年12.1%、前年1.8%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 止葉を含む上位3葉への被害を防止するため、各圃場における発生状況を確認し、発蛾最盛期の7日後（幼虫ふ化揃い期）に薬剤防除を実施する。

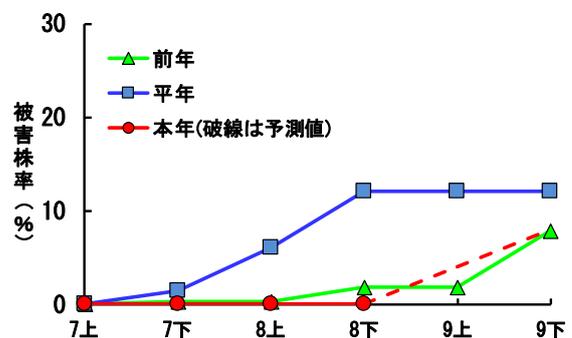


図1 普通期水稻でのコブノメイガの発生推移

大豆

定期調査：22 圃場
調査日：8 月 23～24 日



定期調査圃場の様子

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 3.1%（平年 1.5%、前年 3.3%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：並（±）

白変葉発生株率 0.1%（平年 0.9%、前年 0.6%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：やや少（-～±）

②トラップ調査（図2参照）【県内9地点】

平年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

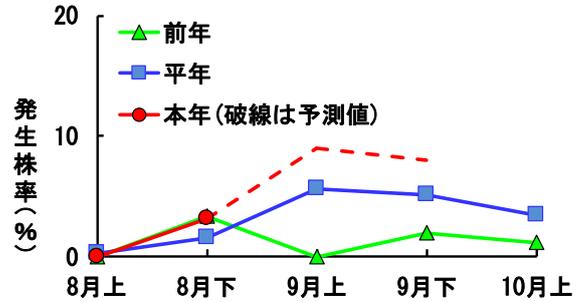


図1 大豆でのハスモンヨトウの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- 防除にあたっては、薬剤のかけむらがないよう規定の範囲で十分量を散布する。
- その他については、特記事項参照。

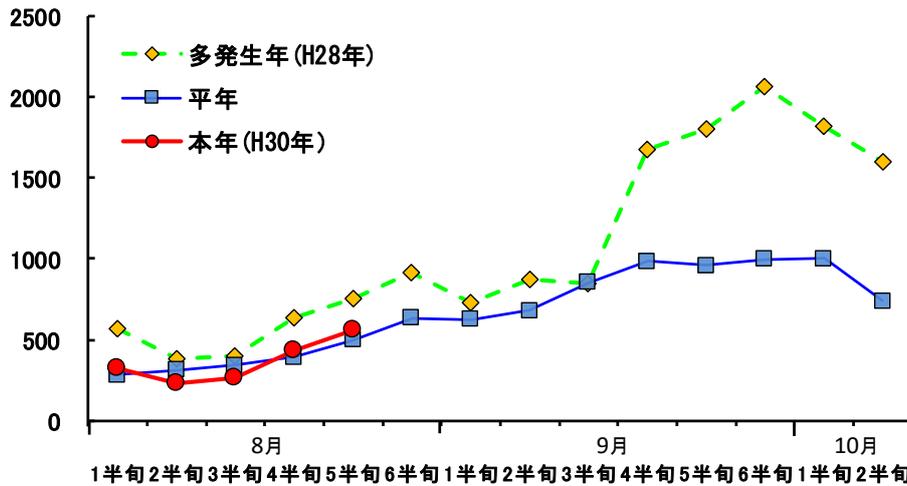


図2 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（10月2半旬まで）
（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。）

2. カメムシ類（アオカメムシ、仔モンジカメムシ、ホバカメムシ、ミミアカメムシ等）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 0.03%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

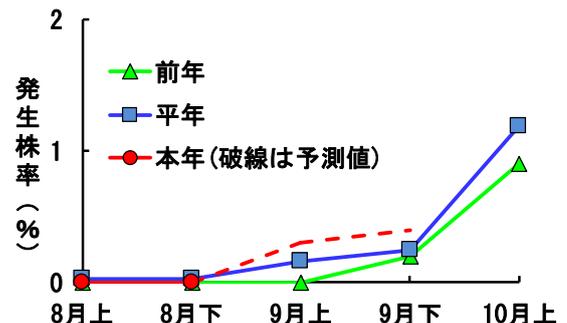


図1 大豆でのカメムシ類の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除は、莢の伸長初期～子実肥大中期（9月中旬頃まで）が効果的である。
- (2) 防除にあたっては、薬剤が莢によくかかるように散布する。

3. 紫斑病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 9月の気象予報 降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 若莢期～子実肥大中期に薬剤防除を実施する。

イチゴ（育苗圃）

定期調査：11 圃場
調査日：8月23～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：9.5%（平年9.8%、前年12.5%）

平年比：並〈±〉 前年比：やや少〈-〜±〉

- (2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。
- (2) その他については特記事項を参照。

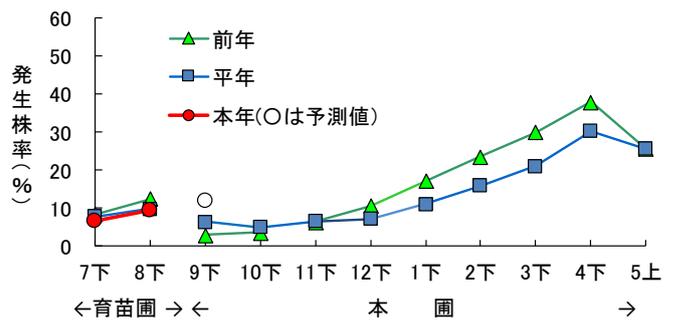


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 子苗での発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.6%、前年2.0%）

平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉

- (2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 感染した苗を本圃へ定植しないよう、育苗期に薬剤防除を徹底する。

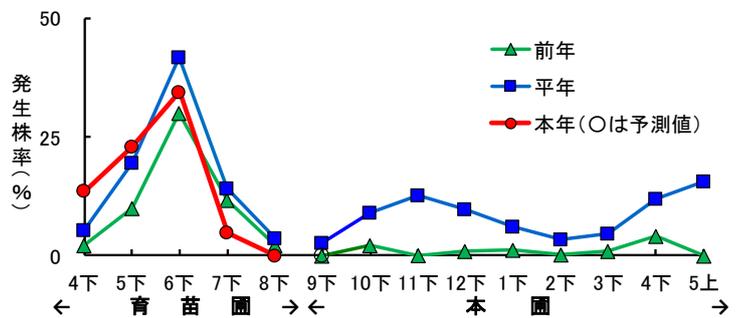


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

アスパラガス

定期調査： 8圃場
調査日：8月23日～24日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：11.3%（平年2.5%、前年1.3%）
平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉
 - (2) 9月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件〈+～±〉
 - (2) 9月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件〈+～±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

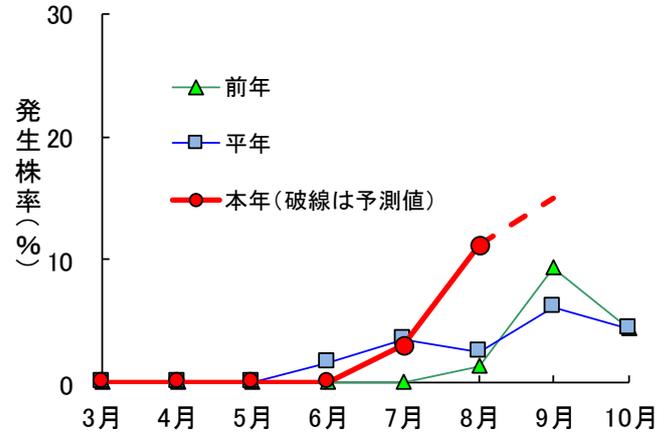


図1 アスパラガスでのハダニ類の発生推移

2. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：27.5%（平年25.1%、前年31.9%）
平年比：並〈±〉 前年比：並〈±〉
 - (2) 9月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件〈+～±〉
 - (2) 9月の気象予報
気温がやや高く、やや多発生の条件〈+～±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 若茎及び親茎への本虫による被害を防ぐため、虫見板（約20×30cm）への払い落とし（擬葉部を2～3回叩く）により調査し、成虫が1ヶ所当たり3頭以上認められる場合は薬剤防除を行う。
 - (2) 多発生圃場では、約7日間隔で2～3回薬剤防除を行う。

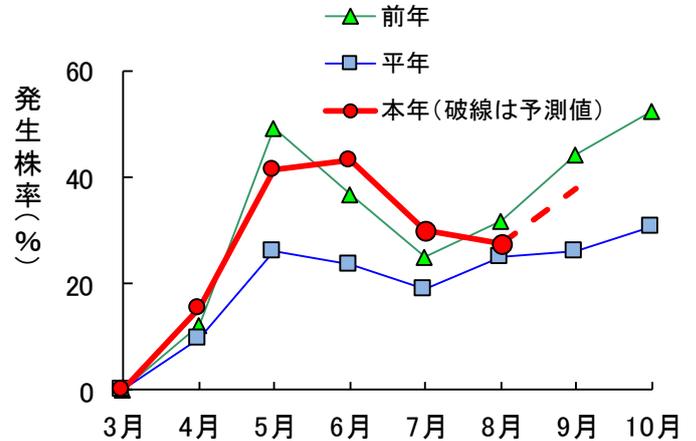


図1 アスパラガスでのアザミウマ類の発生推移

3. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①定期調査（図1参照）
発生株率：20.0%（平年8.8%、前年14.4%）
平年比：多〈+〉 前年比：やや多〈±～+〉
 - (2) 9月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
 - (2) 9月の気象予報
降水量が平年並で、並発生の条件〈±〉
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 降雨時以外は施設開口部を開放し通風を図るとともに、3週間間隔を目安とし発生前から薬剤防除を実施する。なお、既発生圃場及び前年多発生圃場、降雨日が続く場合は散布間隔を短縮する。

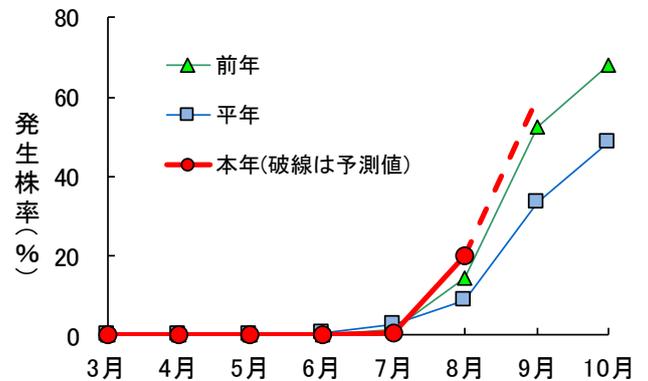


図1 アスパラガス褐斑病の発生推移

野菜・花き共通

1. チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、オオタバコガ）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

イチゴにおける食害株率：0%（平年0.3%、前年0%）

平年比：やや少く（～±） 前年比：並く（±）

アスパラガスにおける食害株率：0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：並く（±） 前年比：並く（±）

② フェロモントラップによるハスモンヨトウ及びオオタバコガの8月の誘殺数は、平年並～平年よりやや多く推移している（図3～4）。（±～+）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場毎の発生状況を確認し、本虫の若齢期に防除する。また、本圃定植前に苗での防除を徹底する。

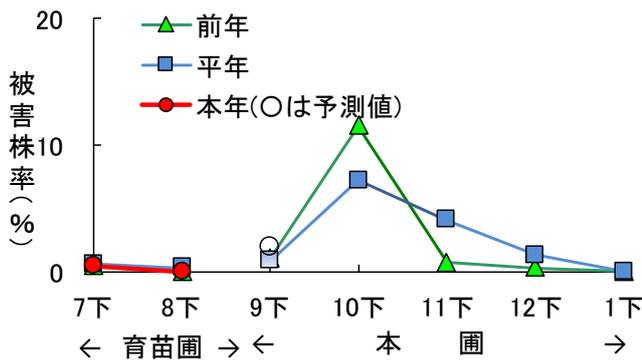


図1 チョウ目害虫によるイチゴの被害株率の推移

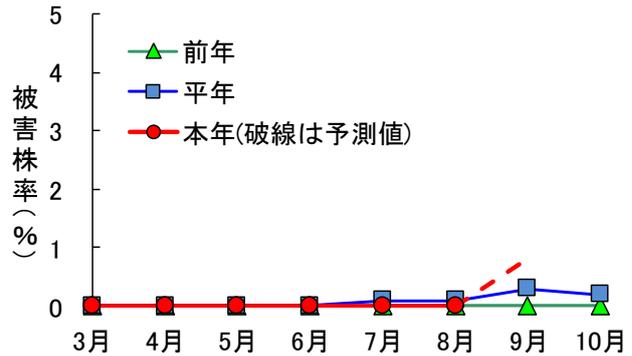


図2 チョウ目害虫のアスパラガスでの被害株率

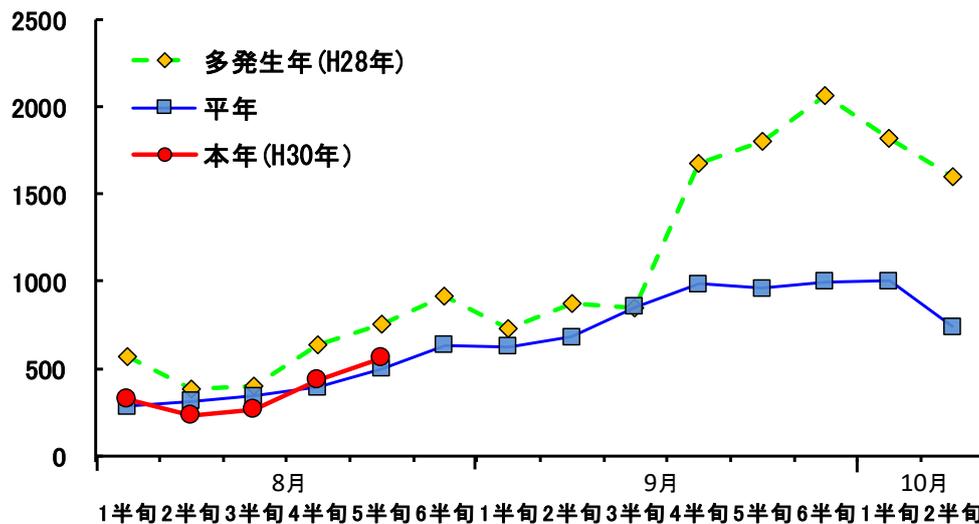


図3 フェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の半旬別誘殺数（10月2半旬まで）
（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。）

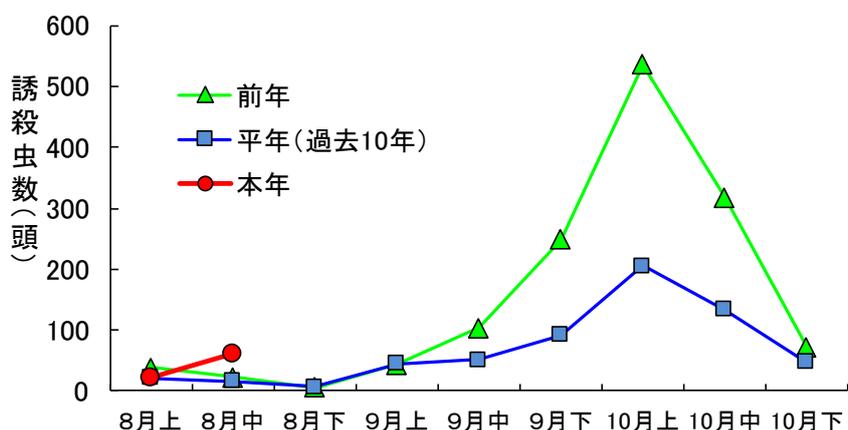


図4 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(病害虫防除員による川副町2地点での平均誘殺数)

果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 予察灯 (図1 参照)

平年比：多<+> 前年比：並<±>

(2) ヒノキ毬果における寄生数 (表1、図2参照、8月20~23日調査)

成幼虫数平均：6.7頭 (平年13.4頭、前年24.4頭)

平年比：やや少<-~±> 前年比：少<->

※8月下旬の寄生数は7月下旬及び8月上旬に比べ減少し、本虫のヒノキからの離脱が始まったと考えられる。

(3) ヒノキ毬果における口針鞘数 (表1、図3参照、8月20~23日調査)

口針鞘数平均：27.8本/果 (平年11.9本、前年15.6本)

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(4) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 平成30年(2018年)8月24日付け病害虫発生予察注意報第2号参照。

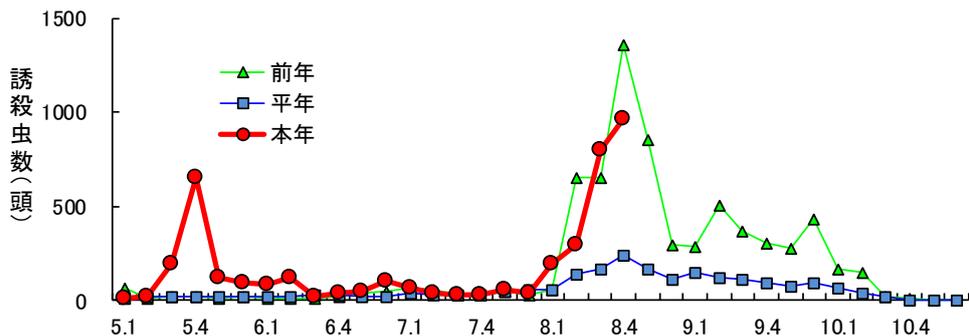


図1 予察灯(佐賀市、小城市、太良町)による果樹カメムシ類の平均誘殺数の推移

表1 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数(調査日:8月20~23日)

No.	調査地点	ヒノキ毬果における寄生状況 ¹⁾						口針鞘数 ²⁾		
		8月上旬			8月下旬			7月下旬	8月上旬	8月下旬
		成虫	幼虫	合計	成虫	幼虫	合計			
1	上峰町	21	3	24	1	3	4	12.7	26.7	22.8
2	神崎市	1	9	10	1	0	1	12.5	23.3	47.8
3	小城市	32	6	38	4	2	6	10.1	14.0	28.1
4	多久市	8	3	11	1	3	4	16.1	17.9	18.4
5	唐津市1	2	4	6	0	3	3	19.3	25.1	23.3
6	唐津市2	1	6	7	9	2	11	11.0	26.6	22.4
7	伊万里市1	11	11	22	10	3	13	3.1	21.3	24.3
8	伊万里市2	11	30	41	5	21	26	4.1	29.6	46.5
9	伊万里市3	11	7	18	8	5	13	0.4	16.0	30.5
10	白石町	11	3	14	5	0	5	4.8	12.2	13.9
11	鹿島市1	5	11	16	4	0	4	4.4	17.2	21.2
12	鹿島市2	5	29	34	0	0	0	10.9	25.6	28.2
13	鹿島市3	7	11	18	0	0	0	10.5	16.2	25.4
14	太良町1	7	27	34	0	1	1	16.3	33.7	45.3
15	太良町2	46	5	51	8	2	10	4.4	15.0	19.4
	平均	11.9	11.0	22.9	3.7	3.0	6.7	9.3	21.3	27.8
	平年	-	-	11.8	-	-	13.4	1.0	5.6	11.9
	前年(H29年)	10.2	11.8	22.0	17.6	6.8	24.4	1.5	7.8	15.6

1)たつき落としによる調査

2)口針鞘数が1果当たり25本を超えるとヒノキ毬果が餌として不適となりカメムシがヒノキ毬果より離脱する傾向

3)ヒノキ毬果着果程度:福岡農総試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査(7月下旬調査)

※ヒノキ毬果における寄生虫数、口針鞘数は地点による差が大きいため、各調査地点の結果が当該市町全体の状況を示すものではない。

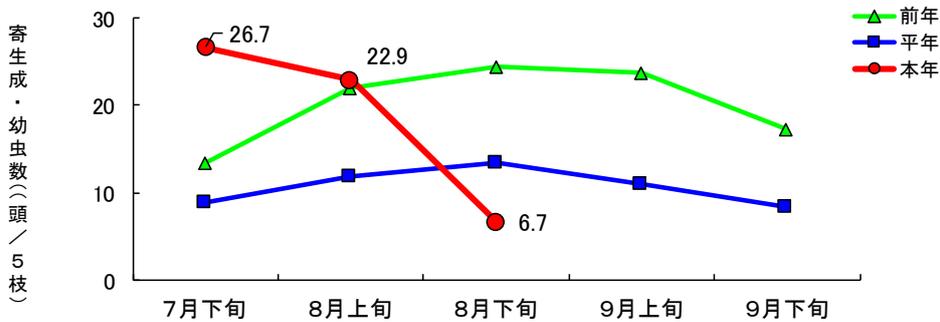


図2 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数の推移

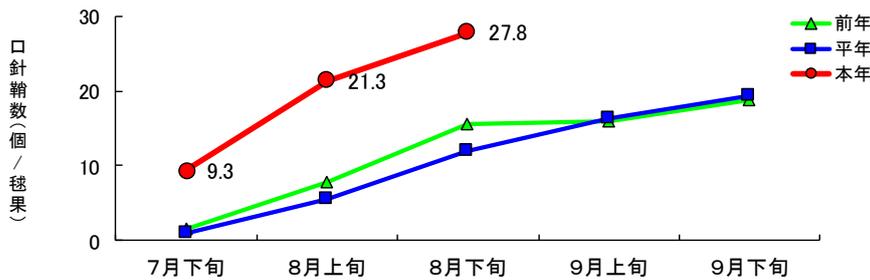


図3 果樹カメムシ類によるヒノキ毬果の口針鞘数の推移

カンキツ

定期調査：8圃場
調査日：8月20～23日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1、2参照）

発生葉率：0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

発生果率：0%（平年0.0%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

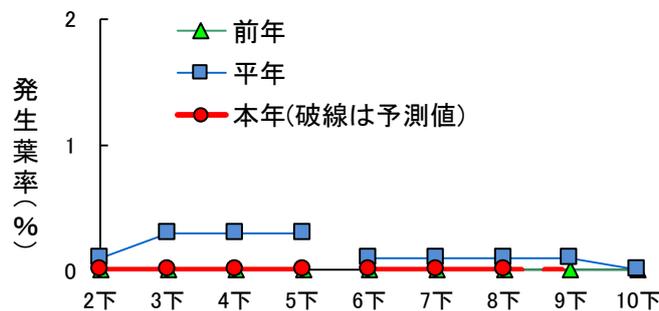


図1 カンキツかいよう病の発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

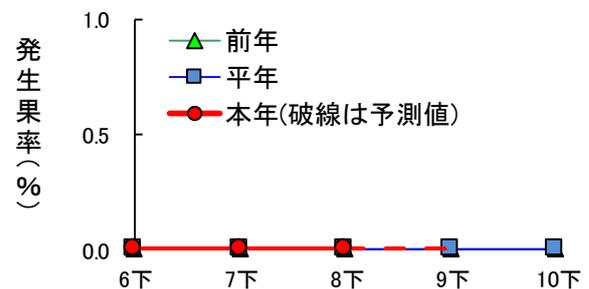


図2 カンキツかいよう病（果実）の発生推移

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、無機銅水和剤（クレフノン 200倍加用）で定期的に防除を行う。散布間隔の目安は20～25日とする。

(2) 無機銅水和剤にマンゼブ水和剤を混用すると無機銅水和剤の防除効果が低下するので控える。

(3) 発病した枝や葉は伝染源となるため除去し、処分する。ただし、強剪定は枝を遅くまで伸長させ、本病にかかりやすい期間を長くするため行わない。

(4) 台風の襲来等強風雨が予想される場合は、襲来7日前～前日までに必ず銅水和剤による防除を行う。

2. 黒点病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生果率：15.1%（平年13.9%、前年3.4%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

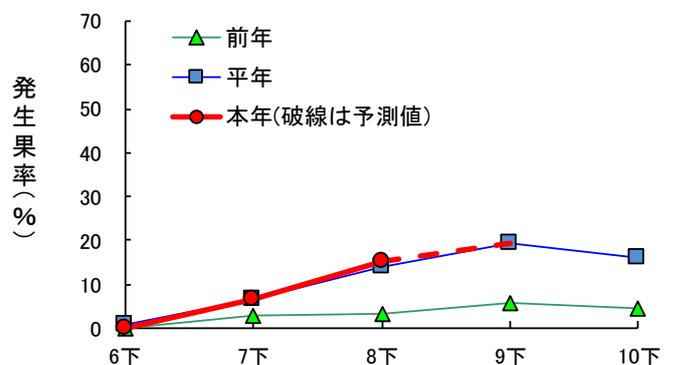


図1 カンキツ黒点病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) マンゼブ水和剤散布後の次回散布時期は、積算降雨量が200～250mmに達した時点を目安とする。ただし、同

雨量に達しない場合でも、散布後1ヶ月を目途に次回の散布を行う。

- (2) ‘せとか’は黒点病に非常に弱いので、露地栽培では積算降雨量150mmを次回散布の目安とする。
- (3) 薬剤散布の際には、収穫前日数等使用基準を遵守し、周辺作物への飛散を防止する。
- (4) 防風樹等の剪定を行い、通風をよくする。
- (5) その他については、特記事項を参照する。

3. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生葉率：2.5%（平年5.7%、前年0.6%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫数が0.5～1頭未満）からの薬剤防除を徹底する。
- (2) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同じ系統の薬剤は年1回のみでの使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。

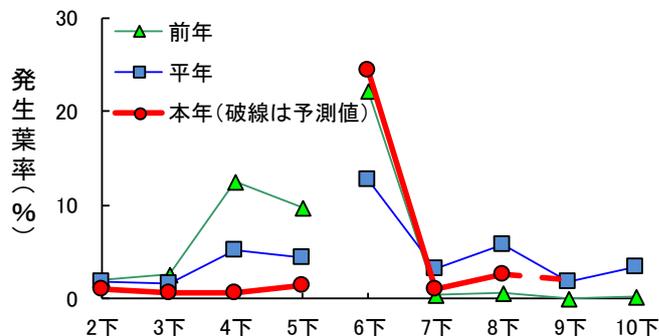


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

注) 5月下旬までは旧葉を調査

4. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生果率：3.4%（平年2.1%、前年0%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

② 黄色粘着トラップ（図2参照）

平年比：少（-） 前年比：やや少（-～±）

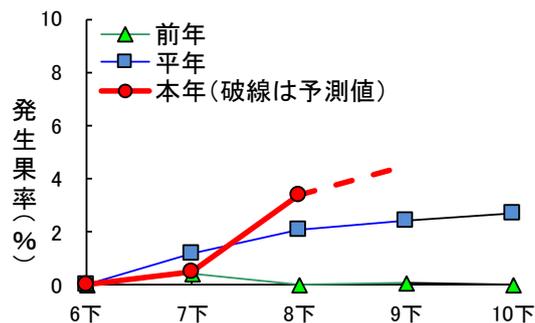


図1 チャノキイロアザミウマによる被害果の発生推移

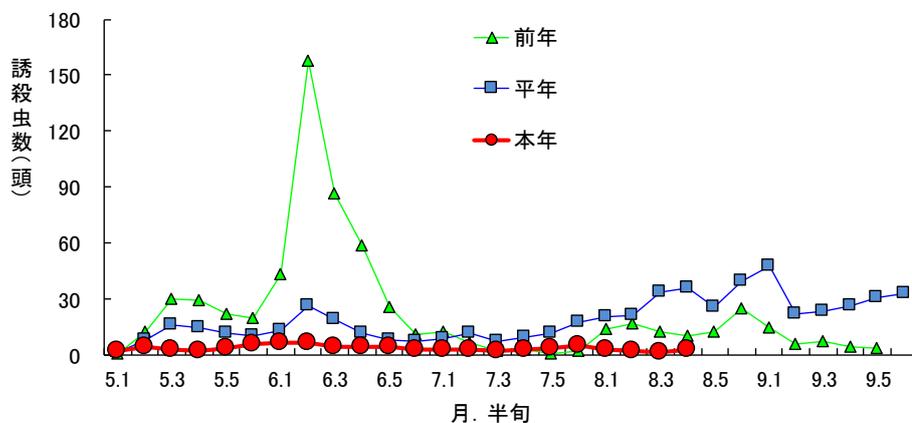


図2 黄色粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの誘殺数の推移（小城市 果樹試験場調査）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照。

ナシ

定期調査 (6 圃場)
調査日 : 8 月 21 日



定期調査圃場の様子

1. ナシヒメシンクイ

1) 予報の内容

発生量 : 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① ナシ園地に設置したフェロモントラップ (図1 参照)

平年比 : やや少く (±) 前年比 : 並 (±)

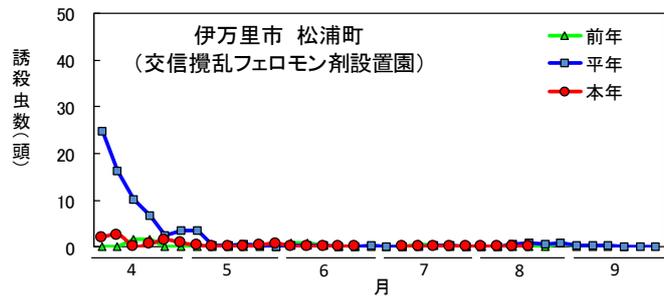
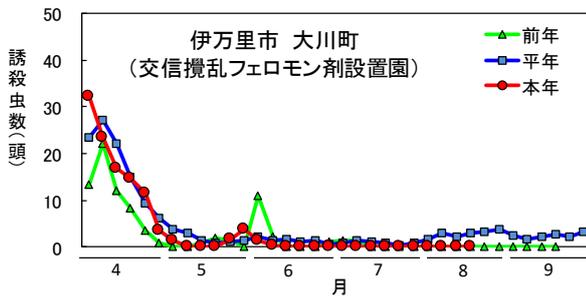
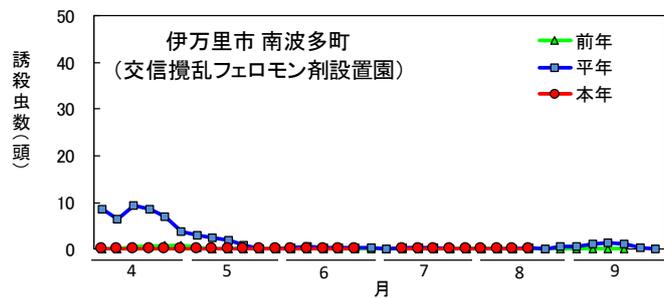
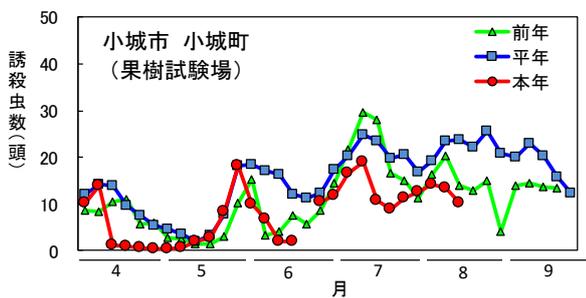


図1 フェロモントラップによるナシヒメシンクイの誘殺数の推移
(果樹試験場、西松浦農業改良普及センター調査)

※台風の影響により、小城市小城町の6月4~5半旬、伊万里市南波多町及び松浦町の6月6半旬~7月1半旬のデータ欠測。

② サクラに設置したフェロモントラップ (表1 参照)

伊万里市3ヶ所での8月第1半旬から第4半旬までの誘殺数は、前年よりやや多い (±~+)

表1 サクラに設置したフェロモントラップにおけるナシヒメシンクイの誘殺数 (頭)
(西松浦農業改良普及センター調査) ※8月1~20日の合計値

地点名	H27年	H28年	H29年	H30年
伊万里市 南波多町	1	0	0	1
伊万里市 大川町	14	53	8	13
伊万里市 新天町	38	37	40	72
計	53	90	48	86

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 有袋栽培でも、果実と袋が密着していると加害されるので注意する。
- (2) 使用する薬剤の選定（収穫前日数や汚れ）には十分注意し、収穫まで7～10日間隔で薬剤散布を行う。
- (3) 交信攪乱フェロモン資材設置園においても、10～14日間隔で薬剤防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：17.2%（平年6.5%、前年1.7%）

平年比：やや多（±～+） 前年比：多（+）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年に使用した殺ダニ剤は使用しない。
- (2) その他については特記事項を参照する。

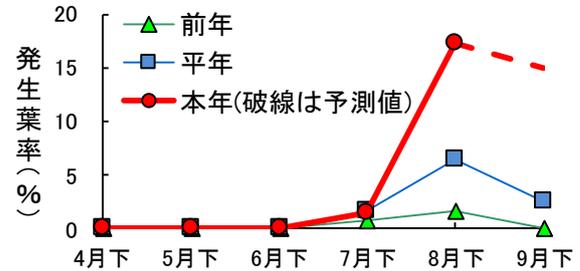


図1 ハダニ類のナシでの発生推移

ブドウ

定期調査（6圃場）

調査日：8月20～22日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：3.3%（平年3.4%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は降雨により伝染するので、降雨前の予防散布を徹底する。
- (2) ストロビルリン系殺菌剤（アミスターフロアブル、ストロビードライフフロアブル等）に対し耐性菌が発生しているため、本系統薬剤は本病の防除には使用しない。
- (3) その他については、特記事項を参照。

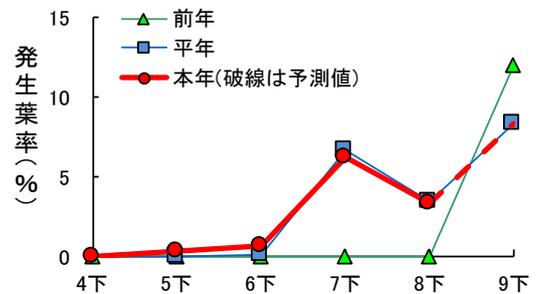


図1 ブドウべと病の発生推移

茶

定期調査：7圃場

調査日：8月20～23日



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

発生葉率: 3.0% (平年 2.3%、前年 2.0%)

平年比: 並 (±) 前年比: 並 (±)

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

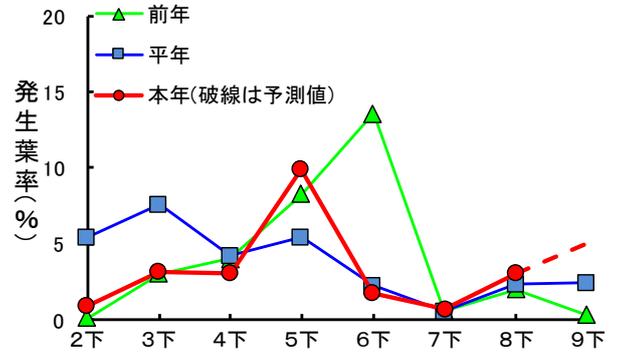


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

2. クワシロカイガラムシ

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや少ない (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1は雄繭の発生推移)

寄生株率 (雄繭): 7.9% (平年 21.6%、前年 23.6%)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: 少 (一)

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件 (±)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 防除適期は第三世代幼虫ふ化期の9月中下旬頃である。園内の発生状況を観察し、ふ化最盛期に薬剤防除を実施する。

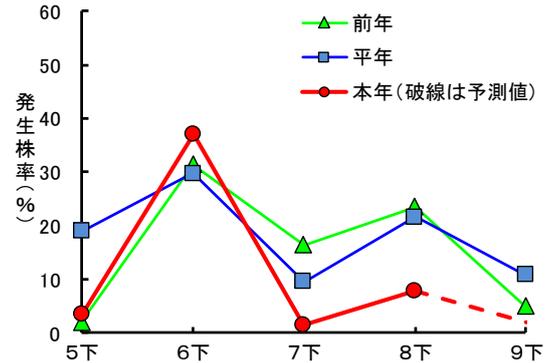


図1 クワシロカイガラムシ(雄繭)の茶での発生推移

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査 (図1 参照)

20回たたきおとし虫数: 10.0頭 (平年 33.3頭、前年 43.1頭)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: やや少 (一~±)

② 吸引粘着トラップ (図2 参照)

平年比: やや少 (一~±) 前年比: やや少 (一~±)

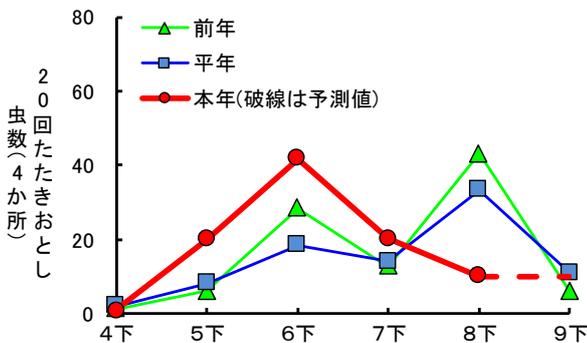


図1 チャノキイロアザミウマの茶での発生推移

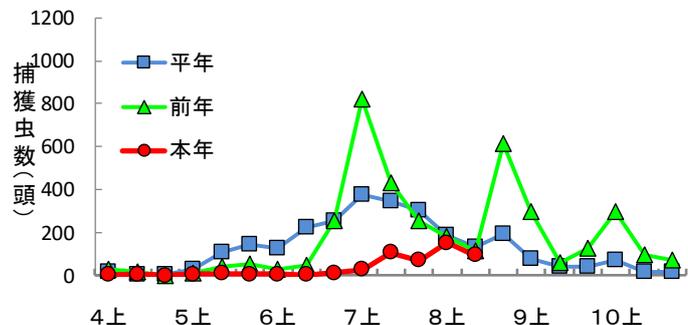


図2 吸引粘着トラップによるチャノキイロアザミウマの旬別捕獲虫数の推移(嬉野市嬉野町、茶業試験場調査)

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 秋期の被害を抑えるため、発生園では薬剤防除を実施する。多発生園では、さらに一週間後を目安に、追加防除を行う。なお、同一系統の薬剤は連用しない。

4. チャノミドリヒメヨコバイ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

20回たたきおとし虫数：2.0頭

（平年3.0頭、前年3.7頭）

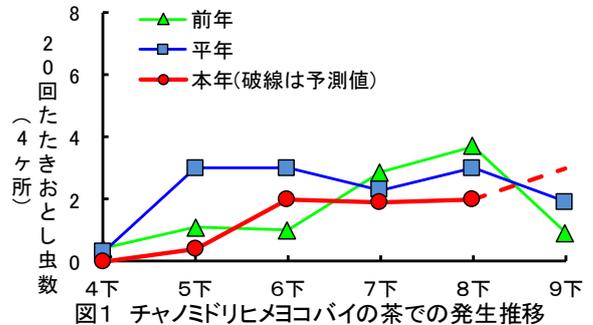
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) チャノキイロアザミウマの項と同じ。



5. 炭疽病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照、H30より5月調査追加）

発生葉数：0枚/m²（平年5.7枚、前年2.0枚）

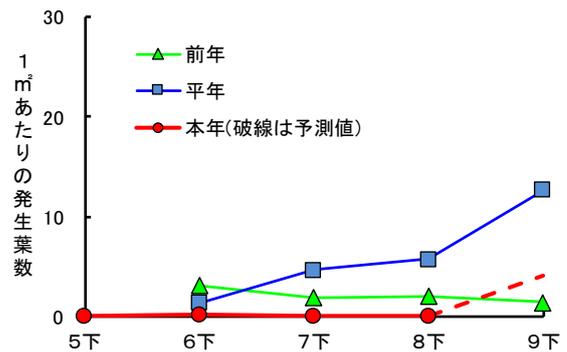
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では、秋芽の充実と翌年の菌密度を抑えるため、秋芽生育期（萌芽期～三葉期）の防除を徹底する。



6. 輪斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

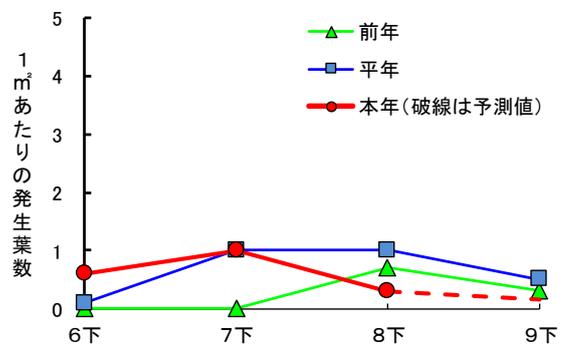
①定期調査（図1参照）

発生葉数：0.3枚/m²（平年1.0枚、前年0.7枚）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 9月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件（±）



連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp